

参考3 マルチレベル回帰分析結果詳細

○総括表（再掲）

分類	No	説明変数	結束型SC指数						橋渡型・連結型SC指数													
			全	1	2	3	4	5	6	全	1	2	3	4	5	6						
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]																			
		1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]																		○	
	②各種学習活動の経験、 学校教育課程の修了	2	最終学歴(専門学校・短大卒ダミー)																			
		2	最終学歴(大卒・大学院卒ダミー)																		○	
		3	出身小学校(公立ダミー)																			
		3	出身中学校(公立ダミー)																			
		4	地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]																			
		4	地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]																			○
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]																			
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]																			○
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]																			
	6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]																			○	
	7	実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]	○				○	○	○												○	
	8	学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		●																		
	9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度	○	○	○	○	○	○	○												○	
	③部活動・クラブ活動への 参加	10	部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]																			
		10	部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]																			
	④社会教育施設を活用し た学習活動経験	11	社会教育施設を活用した経験[小学生時代]																		○	
		11	社会教育施設を活用した経験[中学生時代]																		○	
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度	○		○																○
	⑤学校外での各種学習活 動の経験	13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]																		○	
13		学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]																		○		
14		学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]																		○		
14		学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]																		○		
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]																		○		
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]																		○		
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]																		○		
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]																		○		
17		読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]																			○	
17	読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]																			○		
18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度																			○		
⑥対人関係	19	教員との関係の円滑性[小学生時代]	○																	○		
	19	教員との関係の円滑性[中学生時代]	○																	○		
	20	友人との関係の円滑性[小学生時代]	○	○																○		
	20	友人との関係の円滑性[中学生時代]	○																	○		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢	○																○		
		22	性別(女子ダミー)																		○	
		23	所得	○																	○	
		24	職業(無職ダミー)																		○	
		25	居住年数	○	○	○	○	○													○	
		27	子ども有無(子ども有ダミー)	○																	○	
		28	仕事以外での海外在住経験年数																		○	
		29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数																		○	
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・ 生涯学習施設の整備・開 放	30	人口千人当たり公立小学校数																	○		
		31	人口千人当たり公立中学校数																	○		
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数																		○	
	⑧教育内容・方法の精 査、個別事業の実施、関 連組織の支援	37	公立小学校への通学率																		○	
		37	公立中学校への通学率																		○	
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合																		○	
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合																		○	
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数																		○			
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)																	○		
		43	生産年齢人口割合	●																		
		44-45	人口流動性指数																		○	
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)																		○	

- 全ての説明変数を投入したモデルにおいて、結束型 SC 指数、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数が有意な影響を与えているか/与えていないかを整理した。説明変数を段階的に投入したモデルについては、次頁以降参照。
- 表頭「結束型 SC 指数」「橋渡型・連結型 SC 指数」の列は、それぞれ結束型 SC 指数、橋渡型・連結型 SC 指数への影響を検証した結果。
- 2行目の「全」「1」「2」・・・「6」は、それぞれ以下の回答者を対象として分析した結果であることを意味する。  
全：全回答者    1：公立中学出身×中卒・高校中退・高卒    2：公立中学出身×専門学校卒・短大卒    3：公立中学出身×大卒・大学院卒  
4：私立・国立中学出身×中卒・高校中退・高卒    5：私立・国立中学出身×専門学校卒・短大卒    6：私立・国立中学出身×大卒・大学院卒
- ○●：5%水準で有意な変数（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が5%未満）    [○はポジティブな影響、●はネガティブな影響]

○全回答者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
		切片	0.0042	-1.1158 ***	-0.4622	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0139	-0.0146	
		1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		0.0081	0.0082	
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	2 最終学歴(専門学校・短大卒ダミー)		0.0482	0.0492	
		2 最終学歴(大卒・大学院卒ダミー)		0.0145	0.0174	
		3 出身小学校(公立ダミー)		0.0441	0.0496	
		3 出身中学校(公立ダミー)		0.0485	0.0443	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		0.0030	-0.0001	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		0.0299	0.0300	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0093	-0.0094	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		0.0323	0.0305	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		0.0154	0.0156	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		0.0045	0.0052	
	7 実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0233 ***	0.0236 ***		
	8 学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		-0.0217	-0.0226		
	9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1603 ***	0.1614 ***		
	③部活動・クラブ活動への参加	10 部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		-0.0011	-0.0022	
		10 部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		-0.0081	-0.0083	
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11 社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		0.0052	0.0063	
		11 社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0089	-0.0091	
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.0741 ***	0.0725 ***	
⑤学校外での各種学習活動の経験	13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		0.0188	0.0178		
	13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		0.0240	0.0233		
	14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		0.0161	0.0161		
	14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]		0.0108	0.0119		
	15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]		0.0257	0.0247		
	15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]		0.0205	0.0222		
	16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]		-0.0003	0.0021		
	16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]		0.0019	0.0014		
	17 読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]		-0.0026	-0.0016		
	17 読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]		0.0313	0.0313		
	18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0101	0.0095		
⑥対人関係	19 教員との関係の円滑性[小学生時代]		0.0370 *	0.0381 *		
	19 教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.0568 ***	0.0557 ***		
	20 友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0589 ***	0.0595 ***		
	20 友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0517 **	0.0515 **		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21 年齢		0.0057 *	0.0056 *	
		22 性別(女子ダミー)		-0.0073	-0.0031	
		23 所得		0.0176 *	0.0179 *	
		24 職業(無職ダミー)		-0.1778	-0.1795	
		25 居住年数		0.0472 ***	0.0463 ***	
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.1616 ***	0.1569 ***	
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.0122	0.0124	
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0157	0.0175	
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30 人口千人当たり公立小学校数			-0.2622	
		31 人口千人当たり公立中学校数			-0.0513	
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			-0.0033	
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37 公立小学校への通学率				0.0010
		37 公立中学校への通学率				0.0025
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合				-0.0003
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合				0.0003
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数					-0.0001	
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42 人口規模(対数)			-0.0011	
		43 生産年齢人口割合			-1.6243 *	
		44-45 人口流動性指数				0.0156
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)				0.0544
分散・適合度	分散	58 地域内分散	0.4111	0.2645	0.2657	
		59 地域間分散	0.0086	0.0046	0.0034	
		60 ICC	2.0%	1.7%	1.3%	
	適合度	61 逸脱度(-2LL)	3918.6762	3277.0574	3352.7473	
		62 AIC	3922.6762	3281.0574	3356.7473	

- 全回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加／減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が 0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○全回答者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	橋渡・連結型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-		切片	-0.0038	-1.0408 ***	-0.5551	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0084	-0.0096	
		1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		0.0051	0.0046	
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	2 最終学歴(専門学校・短大卒ダミー)		0.0244	0.0291	
		2 最終学歴(大卒・大学院卒ダミー)		0.0736 **	0.0820 **	
		3 出身小学校(公立ダミー)		0.0116	0.0166	
		3 出身中学校(公立ダミー)		0.0159	0.0118	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		0.0096	0.0083	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		-0.0007	0.0000	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		0.0147	0.0151	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		0.0210	0.0183	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		-0.0119	-0.0117	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		0.0044	0.0054	
		7 実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0085 *	0.0087 *	
	8 学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		0.0038	0.0030		
	9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1198 ***	0.1199 ***		
	③部活動・クラブ活動への参加	10 部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		0.0133	0.0121	
		10 部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		-0.0030	-0.0028	
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11 社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		0.0082	0.0086	
		11 社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0017	-0.0023	
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.0737 ***	0.0739 ***	
	⑤学校外(地域)での各種学習活動の経験	13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		0.0240 *	0.0241 *	
		13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		-0.0170	-0.0178	
		14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		-0.0119	-0.0135	
		14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]		0.0123	0.0128	
		15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]		0.0149	0.0143	
		15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]		-0.0024	-0.0002	
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]			0.0330 **	0.0347 **		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]			-0.0040	-0.0037		
17 読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]			-0.0070	-0.0084		
17 読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]			0.0815 ***	0.0824 ***		
18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0374 ***	0.0367 ***			
⑥対人関係	19 教員との関係の円滑性[小学生時代]		0.0119	0.0129		
	19 教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.0275 **	0.0275 **		
	20 友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0197	0.0192		
	20 友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0038	0.0038		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21 年齢		0.0079 ***	0.0079 ***	
		22 性別(女子ダミー)		-0.0625 **	-0.0591 **	
		23 所得		0.0397 ***	0.0406 ***	
		24 職業(無職ダミー)		-0.0982	-0.0987	
		25 居住年数		0.0054	0.0038	
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.0016	-0.0028	
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.0161 *	0.0176 *	
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0345 ***	0.0353 ***	
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30 人口千人当たり公立小学校数			-0.0508	
		31 人口千人当たり公立中学校数			0.3967	
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			0.0081	
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37 公立小学校への通学率				-0.0053
		37 公立中学校への通学率				0.0020
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合				0.0003
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合				0.0002
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数					-0.0001	
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42 人口規模(対数)			0.0085	
		43 生産年齢人口割合			-0.4420	
		44-45 人口流動性指数			0.0137	
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			-0.0038	
分散・適合度	分散	58 地域内分散	0.2199	0.1299	0.1299	
		59 地域間分散	0.0016	0.0000	0.0000	
		60 ICC	0.7%	-	-	
	適合度	61 逸脱度(-2LL)	2653.4387	1865.9180	1950.4585	
		62 AIC	2657.4387	1869.9180	1954.4585	

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=2060、地域=517] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 全回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×中卒・高校中退・高卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	-0.0300	-0.2597	1.3921	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		0.0119	0.0125
		1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0020	0.0045
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3	出身小学校(公立ダミー)		0.0630	0.1074
		4	地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		0.0174	0.0117
		4	地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		-0.0478	-0.0548
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		0.0240	0.0237
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		0.0086	0.0050
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		0.0000	0.0122
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		0.0416	0.0348
		7	実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0216	0.0225
		8	学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		-0.0603 *	-0.0625 *
	9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1310 **	0.1287 **	
	③部活動・クラブ活動への参加	10	部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		-0.0494	-0.0582
		10	部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		0.0253	0.0380
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11	社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		0.0162	0.0115
		11	社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		0.0304	0.0324
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.0454	0.0416
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		-0.0304	-0.0225
		13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		0.0624	0.0539
		14	学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		-0.0053	-0.0170
14		学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]		0.0880	0.1040 *	
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]		0.0242	0.0145	
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]		0.0084	0.0247	
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]		-0.0127	-0.0059	
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]		-0.0062	-0.0086	
17		読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]		0.0098	0.0141	
17	読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]		0.0307	0.0231		
18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0540 *	0.0526		
⑥対人関係	19	教員との関係の円滑性[小学生時代]		0.0466	0.0501	
	19	教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.0527	0.0424	
	20	友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.1276 **	0.1248 **	
	20	友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0192	0.0275	
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢		-0.0105	-0.0106
		22	性別(女子ダミー)		-0.0985	-0.0846
		23	所得		0.0193	0.0208
		24	職業(無職ダミー)		-0.3057	-0.3492
		25	居住年数		0.0751 **	0.0762 **
		27	子ども有無(子ども有ダミー)		0.0955	0.0945
		28	仕事以外での海外在住経験年数		0.0306	0.0236
29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		-0.0248	-0.0254		
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30	人口千人当たり公立小学校数			0.0097
		31	人口千人当たり公立中学校数			0.0049
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数			-0.0948
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37	公立小学校への通学率			-0.0102
		37	公立中学校への通学率			0.0049
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合			0.0008
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合			0.0009
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			-0.0002		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)			0.0057
		43	生産年齢人口割合			-2.1888
		44-45	人口流動性指数			0.0669
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.0628
分散・適合度	分散	55	地域内分散	0.3565	0.2109	0.2137
		56	地域間分散	0.0122	0.0111	0.0000
		57	ICC	3.3%	5.0%	-
	適合度	58	逸脱度(-2LL)	615.9284	445.4903	433.6801
		59	AIC	621.9284	531.4903	543.6801

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=352、地域=207] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が中卒・高校中退・高卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×中卒・高校中退・高卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	-0.1177 ***	-0.7806 ***	0.2177	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		0.0338	0.0313	
		1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0151	-0.0082	
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3 出身小学校(公立ダミー)		-0.0109	-0.0003	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0173	-0.0190	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		-0.0137	-0.0151	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0131	-0.0122	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		-0.0057	-0.0051	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		-0.0119	-0.0116	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		-0.0421	-0.0383	
		7 実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0175 *	0.0167 *	
		8 学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		0.0089	0.0070	
	9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1007 ***	0.0998 ***		
	③部活動・クラブ活動への参加	10 部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		-0.0120	-0.0173	
		10 部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		-0.0144	-0.0104	
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11 社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0086	-0.0127	
		11 社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		0.0692 **	0.0671 **	
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.0707 **	0.0710 **	
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		0.0019	-0.0003	
		13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		0.0342	0.0334	
		14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		-0.0487	-0.0455	
14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]			0.0696 *	0.0645 *		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]			0.0155	0.0117		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]			-0.0110	-0.0038		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]			0.0208	0.0249		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]			-0.0118	-0.0052		
17 読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]			-0.0215	-0.0213		
17 読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]			0.0098	0.0074		
18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0484 **	0.0470 **			
⑥対人関係	19 教員との関係の円滑性[小学生時代]		0.0150	0.0205		
	19 教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.0261	0.0209		
	20 友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0335	0.0281		
	20 友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0010	0.0040		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21 年齢		0.0007	0.0011	
		22 性別(女子ダミー)		-0.0114	0.0000	
		23 所得		0.0419 **	0.0450 **	
		24 職業(無職ダミー)		-0.1953	-0.1871	
		25 居住年数		0.0074	0.0055	
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.0388	0.0404	
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.0233	0.0319	
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0080	0.0119	
		地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30 人口千人当たり公立小学校数		
31 人口千人当たり公立中学校数					0.0719	
32-36 人口千人当たり社会教育施設数					-0.0078	
⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37 公立小学校への通学率					-0.0096
	37 公立中学校への通学率					0.0014
	38 学校支援地域本部事業実施学校割合					-0.0004
	39 放課後子ども教室実施小学校区割合					0.0002
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数					-0.0001	
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42 人口規模(対数)				-0.0087
		43 生産年齢人口割合				0.0473
		44-45 人口流動性指数				0.0348
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)				-0.0223
分散・適合度	分散	55 地域内分散	0.1248	0.0772	0.0756	
		56 地域間分散	0.0000	0.0000	0.0000	
		57 ICC	-	-	-	
	適合度	58 逸脱度(-2LL)	253.5195	92.5635	85.5645	
		59 AIC	259.5195	178.5635	195.5645	

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=352、地域=207] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が中卒・高校中退・高卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×専門学校卒・短大卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	0.0865 *	-0.8041 **	1.5663	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		0.0524	0.0537
		1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0495	-0.0445
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3	出身小学校(公立ダミー)		0.0000	0.0000
		4	地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0130	-0.0251
		4	地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		0.0731	0.0744
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0539	-0.0380
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		0.1230 *	0.1121 *
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		0.0817	0.0750
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		-0.0023	-0.0020
		7	実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		-0.0004	0.0012
		8	学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		-0.0005	-0.0078
	9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.0972 **	0.0948 *	
	③部活動・クラブ活動への参加	10	部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		-0.0252	-0.0277
		10	部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		0.0455	0.0435
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11	社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		0.0550	0.0705
		11	社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0534	-0.0703
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.1213 **	0.1113 **
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		-0.0181	-0.0174
		13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		-0.0082	-0.0054
		14	学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		-0.0332	-0.0275
14		学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]		0.0392	0.0405	
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]		-0.0289	-0.0289	
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]		0.0344	0.0295	
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]		0.0257	0.0207	
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]		0.0948 *	0.0951 *	
17		読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]		-0.0708	-0.0737	
17	読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]		0.0455	0.0453		
18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0123	0.0098		
⑥対人関係	19	教員との関係の円滑性[小学生時代]		0.0589	0.0622	
	19	教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.1271 **	0.1160 **	
	20	友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0697	0.0705	
	20	友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0393	0.0444	
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢		0.0047	0.0051
		22	性別(女子ダミー)		0.0448	0.0655
		23	所得		0.0052	0.0053
		24	職業(無職ダミー)		0.1507	0.1386
		25	居住年数		0.0730 **	0.0675 *
		27	子ども有無(子ども有ダミー)		0.3141 ***	0.3193 ***
		28	仕事以外での海外在住経験年数		0.0110	0.0136
		29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		-0.0190	-0.0160
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30	人口千人当たり公立小学校数			0.4066
		31	人口千人当たり公立中学校数			-1.2149
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数			0.1165
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37	公立小学校への通学率			-0.0324
		37	公立中学校への通学率			0.0158 *
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合			0.0003
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合			0.0010
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.0001		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)			0.0306
		43	生産年齢人口割合			-2.4612
		44-45	人口流動性指数			0.0207
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.1584
分散・適合度	分散	55	地域内分散	0.4110	0.2107	0.2005
		56	地域間分散	0.0023	0.0000	0.0000
		57	ICC	0.6%	-	-
	適合度	58	逸脱度(-2LL)	623.4241	408.5200	392.6296
		59	AIC	629.4241	492.5200	500.6296

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=329、地域=189] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が専門学校卒・短大卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×専門学校卒・短大卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	-0.0115	-0.9799 ***	-1.4951	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		0.0052	0.0110	
		1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		0.0670 **	0.0616 *	
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3 出身小学校(公立ダミー)		0.0000	0.0000	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0163	-0.0203	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		-0.0054	-0.0106	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		0.0182	0.0314	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		0.0419	0.0340	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		0.0518	0.0525	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		-0.0443	-0.0402	
		7 実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0041	0.0048	
		8 学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		0.0021	0.0077	
	9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1058 ***	0.1026 ***		
	③部活動・クラブ活動への参加	10 部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		0.0079	0.0112	
		10 部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		0.0000	0.0018	
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11 社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		0.0145	0.0001	
		11 社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		0.0028	0.0029	
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.0387	0.0206	
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		0.0542 *	0.0522 *	
		13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		-0.0773 **	-0.0544 *	
		14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		-0.0387	-0.0338	
14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]			0.0313	0.0232		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]			0.0197	0.0262		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]			0.0009	-0.0007		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]			0.0333	0.0214		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]			0.0342	0.0392		
17 読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]			0.0124	0.0048		
17 読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]		0.0541	0.0644 *			
18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0228	0.0173			
⑥対人関係	19 教員との関係の円滑性[小学生時代]		-0.0023	-0.0008		
	19 教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.0645 **	0.0673 **		
	20 友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0219	0.0226		
	20 友人との関係の円滑性[中学生時代]		-0.0199	-0.0205		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21 年齢		0.0133 ***	0.0123 ***	
		22 性別(女子ダミー)		0.0263	0.0439	
		23 所得		0.0009	0.0003	
		24 職業(無職ダミー)		0.0891	0.0101	
		25 居住年数		0.0212	0.0269	
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.0379	0.0349	
		28 仕事以外での海外在住経験年数		-0.0087	0.0003	
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0168	0.0290	
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30 人口千人当たり公立小学校数			0.9107 *	
		31 人口千人当たり公立中学校数			0.3205	
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			0.1123	
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37 公立小学校への通学率				-0.0018
		37 公立中学校への通学率				-0.0027
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合				0.0008
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合				0.0006
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数				0.0001		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42 人口規模(対数)			0.0108	
		43 生産年齢人口割合			0.8146	
		44-45 人口流動性指数			-0.0126	
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			-0.0109	
分散・適合度	分散	55 地域内分散	0.1492	0.0842	0.0782	
		56 地域間分散	0.0019	0.0000	0.0000	
		57 ICC	1.2%	-	-	
	適合度	58 逸脱度(-2LL)	302.3350	116.0159	92.3996	
		59 AIC	308.3350	200.0159	200.3996	

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=329、地域=189] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が専門学校卒・短大卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×大卒・大学院卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	-0.0163	-1.6229 ***	1.7154	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0488	-0.0568
		1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0156	-0.0176
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3	出身小学校(公立ダミー)		0.2030	0.2681
		4	地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0193	-0.0404
		4	地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		0.0810	0.0923
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		0.0162	0.0213
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		0.0505	0.0517
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		0.0345	0.0367
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		0.0214	0.0086
		7	実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0405 **	0.0461 ***
		8	学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		-0.0304	-0.0260
	9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1254 **	0.1394 **	
	③部活動・クラブ活動への参加	10	部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		0.0077	-0.0008
		10	部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		0.0089	0.0148
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11	社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0918 *	-0.0928 *
		11	社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		0.0178	0.0194
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.0524	0.0385
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		0.0483	0.0657
		13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		0.0001	-0.0114
		14	学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		0.0146	0.0168
14		学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]		-0.0042	0.0094	
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]		0.0331	0.0384	
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]		0.0277	0.0249	
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]		-0.0703	-0.0697	
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]		-0.0039	-0.0065	
⑥対人関係	17	読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]		-0.0105	-0.0088	
	17	読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]		0.0735	0.0818	
	18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0193	0.0176	
	19	教員との関係の円滑性[小学生時代]		0.0542	0.0526	
	19	教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.0219	0.0095	
	20	友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0077	0.0212	
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	20	友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0791	0.0828
		21	年齢		0.0064	0.0065
		22	性別(女子ダミー)		0.0125	0.0246
		23	所得		0.0587 **	0.0564 **
		24	職業(無職ダミー)		-0.3133	-0.2947
		25	居住年数		0.0561 *	0.0550 *
		27	子ども有無(子ども有ダミー)		0.2447 ***	0.2146 **
		28	仕事以外での海外在住経験年数		0.0275	0.0283
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0169	0.0193
		30	人口千人当たり公立小学校数			-1.5787
		31	人口千人当たり公立中学校数			0.8388
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	32-36	人口千人当たり社会教育施設数			0.0057
		37	公立小学校への通学率			-0.0093
		37	公立中学校への通学率			-0.0040
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合			-0.0015
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合			0.0003
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			-0.0006		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)			-0.0536
		43	生産年齢人口割合			-1.7659
		44-45	人口流動性指数			0.0856
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.0107
分散・適合度	分散	55	地域内分散	0.3437	0.2333	0.2307
		56	地域間分散	0.0194	0.0013	0.0000
		57	ICC	5.3%	0.5%	-
	適合度	58	逸脱度(-2LL)	616.7622	627.9912	674.7088
		59	AIC	620.7622	631.9912	678.7088

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=351、地域=177] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が大卒・大学院卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型SC指数にどの変数がある程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型SC指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。



○「公立中学校出身×大卒・大学院卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	0.0275	-0.4932 *	0.1779	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0135	-0.0083	
		1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		0.0192	0.0198	
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3 出身小学校(公立ダミー)			-0.0632	-0.1032
		4 地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]			-0.0107	-0.0128
		4 地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]			-0.0196	-0.0284
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]			-0.0116	-0.0129
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]			0.0595	0.0658
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]			0.0360	0.0240
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]			-0.0277	-0.0299
		7 実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]			-0.0015	-0.0021
		8 学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]			0.0236	0.0243
	9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度			0.0528	0.0460	
	③部活動・クラブ活動への参加	10 部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]			0.0236	0.0190
		10 部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]			-0.0019	-0.0044
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11 社会教育施設を活用した経験[小学生時代]			-0.0532	-0.0493
		11 社会教育施設を活用した経験[中学生時代]			0.0556 *	0.0463
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度			0.0225	0.0258
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]			0.0558	0.0657 *
		13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]			-0.0157	-0.0239
		14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]			-0.0111	-0.0077
14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]				0.0149	0.0306	
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]				0.0160	0.0117	
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]				0.0184	0.0215	
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]				0.0335	0.0338	
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]				-0.0150	-0.0148	
17 読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]				-0.0281	-0.0287	
17 読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]			0.1291 ***	0.1377 ***		
18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度			0.0215	0.0206		
⑥対人関係	19 教員との関係の円滑性[小学生時代]			0.0300	0.0265	
	19 教員との関係の円滑性[中学生時代]			0.0149	0.0099	
	20 友人との関係の円滑性[小学生時代]			0.0343	0.0304	
	20 友人との関係の円滑性[中学生時代]			-0.0263	-0.0138	
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21 年齢		0.0038	0.0039	
		22 性別(女子ダミー)		-0.0319	-0.0186	
		23 所得		0.0097	0.0082	
		24 職業(無職ダミー)		-0.0507	-0.0388	
		25 居住年数		0.0098	0.0086	
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.0149	0.0196	
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.0119	0.0131	
29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0372 *	0.0375			
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30 人口千人当たり公立小学校数			-1.0560	
		31 人口千人当たり公立中学校数			4.1381 **	
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			0.0066	
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37 公立小学校への通学率				-0.0154
		37 公立中学校への通学率				0.0048
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合				0.0006
39 放課後子ども教室実施小学校区割合					-0.0005	
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数					0.0000	
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42 人口規模(対数)			0.0009	
		43 生産年齢人口割合			0.3579	
		44-45 人口流動性指数				0.0351
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)				0.0154
分散・適合度	分散	55 地域内分散	0.1470	0.1081	0.1077	
		56 地域間分散	0.0000	0.0000	0.0000	
		57 ICC	-	-	-	
	適合度	58 逸脱度(-2LL)	315.2025	398.7447	458.4029	
		59 AIC	319.2025	402.7447	462.4029	

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=351、地域=177] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が大卒・大学院卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×中卒・高校中退・高卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	-0.1417 **	-1.0793 **	-2.2286	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		0.0064	0.0085	
		1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		0.0918	0.0914	
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3 出身小学校(公立ダミー)		0.0241	0.0068	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		0.0441	0.0259	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		-0.0172	-0.0298	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		0.0600	0.0847	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		-0.1042	-0.1093	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		0.1848	0.1664 *	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		-0.0657	-0.0981	
		7 実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0420 **	0.0502 **	
		8 学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		0.0185	0.0220	
	9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1913 ***	0.1956 ***		
	③部活動・クラブ活動への参加	10 部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		-0.1246 **	-0.1284 **	
		10 部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		-0.0360	-0.0399	
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11 社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0307	-0.0266	
		11 社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		0.0085	0.0013	
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.0498	0.0438	
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		0.0976	0.0971	
		13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		0.0936	0.0961	
		14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		-0.0451	-0.0611	
14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]			-0.0873	-0.0386		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]			0.0331	0.0419		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]			0.0948	0.1103		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]			0.1026	0.1089 *		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]			-0.1574 *	-0.1853 *		
17 読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]			0.0354	0.0574		
17 読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]		-0.0640	-0.0576			
18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		-0.0276	-0.0272			
⑥対人関係	19 教員との関係の円滑性[小学生時代]		0.0008	-0.0203		
	19 教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.1520 ***	0.1492 ***		
	20 友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0415	0.0516		
	20 友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0837	0.0950 *		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21 年齢		-0.0006	-0.0005	
		22 性別(女子ダミー)		0.1258	0.1216	
		23 所得		0.0098	0.0121	
		24 職業(無職ダミー)		-0.0983	-0.1239	
		25 居住年数		0.0621 *	0.0807 *	
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		-0.0194	-0.0238	
		28 仕事以外での海外在住経験年数		-0.0336	-0.0311	
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0565	0.0578	
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30 人口千人当たり公立小学校数			1.5456	
		31 人口千人当たり公立中学校数			-2.7612	
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			0.1066	
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37 公立小学校への通学率				0.0259
		37 公立中学校への通学率				-0.0106
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合				0.0007
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合				-0.0003
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数				-0.0001		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42 人口規模(対数)			0.0073	
		43 生産年齢人口割合			-1.3189	
		44-45 人口流動性指数			-0.0854	
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.0198	
分散・適合度	分散	55 地域内分散	0.4380	0.2557	0.2550	
		56 地域間分散	0.0000	0.0000	0.0000	
		57 ICC	-	-	-	
	適合度	58 逸脱度(-2LL)	474.3063	487.7717	533.2044	
		59 AIC	478.3063	491.7717	537.2044	

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=243、地域=147] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が中卒・高校中退・高卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×中卒・高校中退・高卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	-0.1714 ***	-1.2129 ***	2.2216	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0267	-0.0369	
		1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0144	-0.0109	
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3 出身小学校(公立ダミー)		0.0014	0.0125	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		0.0252	0.0202	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		0.0136	-0.0047	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0025	-0.0087	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		0.0243	0.0249	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		0.0008	0.0064	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		0.0411	0.0333	
		7 実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0063	0.0107	
		8 学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		0.0321	0.0265	
	9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1098 **	0.1199 ***		
	③部活動・クラブ活動への参加	10 部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		-0.0134	-0.0095	
		10 部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		-0.0227	-0.0181	
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11 社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0103	-0.0048	
		11 社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0526	-0.0424	
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.0328	0.0321	
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		-0.0048	-0.0022	
		13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		0.0218	0.0223	
		14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		0.0013	-0.0121	
14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]			0.0183	0.0232		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]			-0.0014	-0.0065		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]			-0.0065	0.0015		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]			0.0859 *	0.0873 *		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]			-0.0164	-0.0248		
17 読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]			0.0295	0.0399		
17 読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]		0.1028 **	0.0988 *			
18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0193	0.0162			
⑥対人関係	19 教員との関係の円滑性[小学生時代]		-0.0057	-0.0085		
	19 教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.0366	0.0385		
	20 友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0061	0.0133		
	20 友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0554	0.0523		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21 年齢		0.0140 **	0.0136 **	
		22 性別(女子ダミー)		-0.1022	-0.0978	
		23 所得		0.0253	0.0323	
		24 職業(無職ダミー)		-0.1168	-0.0293	
		25 居住年数		0.0036	-0.0007	
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.0453	0.0433	
		28 仕事以外での海外在住経験年数		-0.0012	0.0170	
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		-0.0136	-0.0114	
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30 人口千人当たり公立小学校数			0.1094	
		31 人口千人当たり公立中学校数			-0.5331	
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			-0.0164	
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37 公立小学校への通学率				-0.0280
		37 公立中学校への通学率				0.0089
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合				0.0014
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合				-0.0002
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数				-0.0003		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42 人口規模(対数)			-0.0075	
		43 生産年齢人口割合			-3.0066	
		44-45 人口流動性指数			0.0329	
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.1402	
分散・適合度	分散	55 地域内分散	0.1634	0.1143	0.1120	
		56 地域間分散	0.0267	0.0049	0.0068	
		57 ICC	14.1%	4.1%	5.7%	
	適合度	58 逸脱度(-2LL)	275.0882	339.9270	393.0462	
		59 AIC	279.0882	343.9270	397.0462	

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=243、地域=147] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が中卒・高校中退・高卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×専門学校卒・短大卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	0.0367	-1.6245 ***	-1.1192	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0182	-0.0039
		1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		0.0293	0.0273
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3	出身小学校(公立ダミー)		0.0665	0.0782
		4	地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0686	-0.0912
		4	地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		0.1020 *	0.1156 *
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0729	-0.0631
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		0.0951	0.1069
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		0.0610	0.0696
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		-0.0941	-0.1003
		7	実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0474 **	0.0443 *
		8	学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		-0.0044	-0.0103
	9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1934 ***	0.1819 ***	
	③部活動・クラブ活動への参加	10	部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		0.0194	0.0173
		10	部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		-0.0337	-0.0423
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11	社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		0.0558	0.0699
		11	社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0625	-0.0744
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.0644	0.0566
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		0.0148	0.0093
		13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		0.0055	0.0196
		14	学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		0.0476	0.0250
14		学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]		0.0559	0.0491	
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]		0.0271	0.0473	
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]		-0.0725	-0.0842	
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]		-0.0389	-0.0521	
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]		-0.0072	0.0091	
17		読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]		0.0545	0.0916	
17		読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]		0.0204	-0.0022	
18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0081	0.0143		
⑥対人関係	19	教員との関係の円滑性[小学生時代]		-0.0067	-0.0138	
	19	教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.0146	0.0257	
	20	友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0400	0.0398	
	20	友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0438	0.0396	
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢		0.0117	0.0089
		22	性別(女子ダミー)		-0.1090	-0.1268
		23	所得		0.0311	0.0163
		24	職業(無職ダミー)		-0.1254	-0.2184
		25	居住年数		0.0436	0.0617
		27	子ども有無(子ども有ダミー)		0.1337	0.1337
		28	仕事以外での海外在住経験年数		-0.0028	0.0042
		29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0097	0.0030
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30	人口千人当たり公立小学校数			-2.1605
		31	人口千人当たり公立中学校数			1.5538
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数			0.3936
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37	公立小学校への通学率			-0.0044
		37	公立中学校への通学率			-0.0015
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合			0.0017
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合			0.0005
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.0005		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)			0.0292
		43	生産年齢人口割合			-1.2062
		44-45	人口流動性指数			-0.1694
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.1347
分散・適合度	分散	55	地域内分散	0.4597	0.3255	0.3317
		56	地域間分散	0.0105	0.0000	0.0000
		57	ICC	2.2%	-	-
	適合度	58	逸脱度(-2LL)	534.0911	578.4633	625.0580
		59	AIC	538.0911	582.4633	629.0580

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=265、地域=124] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が専門学校卒・短大卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×専門学校卒・短大卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	-0.0149	-0.9957 ***	-1.1493	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0356	-0.0317	
		1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		0.0460	0.0473	
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3 出身小学校(公立ダミー)		0.0570	0.0562	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0056	-0.0068	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		-0.0106	-0.0080	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		0.0076	0.0140	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		0.0461	0.0524	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		0.0097	0.0059	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		-0.0621	-0.0632	
		7 実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0174	0.0191 *	
		8 学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		0.0303	0.0250	
	9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.0832 **	0.0799 **		
	③部活動・クラブ活動への参加	10 部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		0.0092	0.0049	
		10 部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		-0.0010	-0.0040	
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11 社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		0.0359	0.0390	
		11 社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0091	-0.0183	
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.0841 ***	0.0883 ***	
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		0.0065	0.0115	
		13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		0.0248	0.0141	
		14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		0.0014	0.0033	
14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]			0.0070	0.0103		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]			0.0164	0.0156		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]			0.0099	0.0092		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]			-0.0036	-0.0063		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]			-0.0029	-0.0049		
17 読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]			0.0001	0.0136		
17 読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]			0.0537	0.0432		
⑥対人関係	18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0166	0.0172		
	19 教員との関係の円滑性[小学生時代]		-0.0253	-0.0299		
	19 教員との関係の円滑性[中学生時代]		-0.0013	0.0058		
	20 友人との関係の円滑性[小学生時代]		-0.0090	-0.0073		
	20 友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0518	0.0459		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21 年齢		0.0052	0.0041	
		22 性別(女子ダミー)		-0.0157	-0.0288	
		23 所得		0.0218	0.0186	
		24 職業(無職ダミー)		-0.0444	-0.0482	
		25 居住年数		0.0102	0.0102	
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		-0.0010	0.0220	
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.0251	0.0264	
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0170	0.0174	
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30 人口千人当たり公立小学校数			0.7650	
		31 人口千人当たり公立中学校数			0.1437	
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			-0.0527	
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37 公立小学校への通学率				-0.0083
		37 公立中学校への通学率				0.0014
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合				0.0014
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合				-0.0004
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数				0.0000		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42 人口規模(対数)			0.0456	
		43 生産年齢人口割合			0.0872	
		44-45 人口流動性指数			-0.0469	
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.0038	
分散・適合度	分散	55 地域内分散	0.1667	0.1043	0.1052	
		56 地域間分散	0.0000	0.0000	0.0020	
		57 ICC	-	-	1.8%	
	適合度	58 逸脱度(-2LL)	271.2862	334.8560	395.8177	
		59 AIC	275.2862	338.8560	399.8177	

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=265、地域=124] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が専門学校卒・短大卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×大卒・大学院卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	0.0448	-1.089425 ***	0.0990	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0400	-0.0463
		1	放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		0.0077	0.0174
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3	出身小学校(公立ダミー)		0.0296	0.0286
		4	地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		0.0550	0.0516
		4	地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		-0.0006	-0.0088
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		-0.0411	-0.0437
		5	他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		0.0297	0.0327
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		-0.0461	-0.0463
		6	学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		0.0242	0.0357
		7	実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0110	0.0085
		8	学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		-0.0115	-0.0141
	9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1694 ***	0.1618 ***	
	③部活動・クラブ活動への参加	10	部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		0.0384	0.0303
		10	部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		-0.0041	-0.0022
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11	社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		0.0149	0.0186
		11	社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		0.0234	0.0241
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.1060 ***	0.1081 ***
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		0.0498	0.0431
		13	学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		0.0367	0.0326
		14	学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		-0.0087	-0.0050
14		学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]		-0.0015	-0.0004	
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]		0.0624 *	0.0609 *	
15		子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]		0.0249	0.0300	
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]		-0.0281	-0.0164	
16		文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]		0.0139	0.0067	
17		読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]		-0.0517	-0.0479	
17	読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]		0.0668	0.0626		
18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0015	0.0047		
⑥対人関係	19	教員との関係の円滑性[小学生時代]		0.0681 *	0.0735 *	
	19	教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.0139	0.0116	
	20	友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0638 *	0.0651 *	
	20	友人との関係の円滑性[中学生時代]		0.0511	0.0556	
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢		0.0107 *	0.0116 *
		22	性別(女子ダミー)		0.0441	0.0539
		23	所得		-0.0022	-0.0013
		24	職業(無職ダミー)		-0.0886	-0.0703
		25	居住年数		0.0231	0.0203
		27	子ども有無(子ども有ダミー)		0.1579 **	0.1301 *
		28	仕事以外での海外在住経験年数		0.0074	0.0074
		29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0252	0.0244
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30	人口千人当たり公立小学校数			-0.9783
		31	人口千人当たり公立中学校数			-1.3081
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数			-0.1804
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37	公立小学校への通学率			0.0120
		37	公立中学校への通学率			0.0055
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合			-0.0024
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合			-0.0003
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			-0.0002		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)			-0.0309
		43	生産年齢人口割合			-2.9925
		44-45	人口流動性指数			0.0948
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.0343
分散・適合度	分散	55	地域内分散	0.4319	0.2637	0.2582
		56	地域間分散	0.0209	0.0116	0.0180
		57	ICC	4.6%	4.2%	6.5%
	適合度	58	逸脱度(-2LL)	1042.8117	962.3710	1011.4990
		59	AIC	1046.8117	966.3710	1015.4990

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=525、地域=180] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が大卒・大学院卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×大卒・大学院卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-	0	切片	0.1676 ***	-0.9632 ***	-0.2308	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[小学生時代]		-0.0006	-0.0025	
		1 放課後・休日に学校施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0019	0.0043	
	②各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	3 出身小学校(公立ダミー)			-0.0522	-0.0506
		4 地域と連携した授業を受けた経験[小学生時代]		0.0166	0.0119	
		4 地域と連携した授業を受けた経験[中学生時代]		0.0271	0.0265	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[小学生時代]		0.0191	0.0196	
		5 他者理解に係る授業を受けた経験[中学生時代]		-0.0076	-0.0121	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[小学生時代]		-0.0554	-0.0581	
		6 学校、保護者、地域住民協働による学校行事の参加経験[中学生時代]		0.0407	0.0423	
		7 実技教科(音楽、美術、保健体育、技術家庭)への積極性[中学生時代]		0.0003	0.0007	
		8 学習成績(学校内での主観評価)[中学生時代]		-0.0235	-0.0236	
	9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.1598 ***	0.1539 ***		
	③部活動・クラブ活動への参加	10 部活動・クラブ活動の参加経験[小学生時代]		0.0214	0.0151	
		10 部活動・クラブ活動の参加経験[中学生時代]		0.0114	0.0131	
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11 社会教育施設を活用した経験[小学生時代]		0.0662 *	0.0660 *	
		11 社会教育施設を活用した経験[中学生時代]		-0.0478	-0.0480	
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.1251 ***	0.1291 ***	
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[小学生時代]		0.0391	0.0337	
		13 学校外で、教員及び保護者以外の住民から学習した経験[中学生時代]		-0.0361	-0.0307	
		14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[小学生時代]		-0.0173	-0.0164	
14 学校、保護者、地域住民協働による地域行事の参加経験[中学生時代]			-0.0008	0.0018		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[小学生時代]			0.0298	0.0290		
15 子ども会、スポーツ少年団等の青少年団体経験[中学生時代]			-0.0199	-0.0167		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[小学生時代]			0.0127	0.0185		
16 文化・芸術関連の習い事(音楽、絵画等)経験[中学生時代]			0.0223	0.0185		
17 読書習慣(平均読書冊数)[小学生時代]			-0.0268	-0.0257		
17 読書習慣(平均読書冊数)[中学生時代]		0.0840 **	0.0840 **			
18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.0627 ***	0.0633 ***			
⑥対人関係	19 教員との関係の円滑性[小学生時代]		0.0370	0.0441		
	19 教員との関係の円滑性[中学生時代]		0.0225	0.0181		
	20 友人との関係の円滑性[小学生時代]		0.0110	0.0081		
	20 友人との関係の円滑性[中学生時代]		-0.0070	-0.0039		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21 年齢		0.0082 *	0.0084 *	
		22 性別(女子ダミー)		-0.0885	-0.0837	
		23 所得		0.0658 ***	0.0666 ***	
		24 職業(無職ダミー)		-0.1791	-0.1795	
		25 居住年数		-0.0121	-0.0151	
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		-0.0196	-0.0315	
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.0083	0.0108	
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.0587 ***	0.0618 ***	
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・生涯学習施設の整備・開放	30 人口千人当たり公立小学校数			0.1902	
		31 人口千人当たり公立中学校数			-0.1911	
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			-0.2644	
	⑧教育内容・方法の精査、個別事業の実施、関連組織の支援	37 公立小学校への通学率				-0.0002
		37 公立中学校への通学率				0.0045
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合				0.0003
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合				0.0005
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数					-0.0001	
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42 人口規模(対数)				0.0068
		43 生産年齢人口割合				-2.1070
		44-45 人口流動性指数				-0.0073
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)				0.0586
分散・適合度	分散	55 地域内分散	0.3638	0.1824	0.1855	
		56 地域間分散	0.0085	0.0028	0.0000	
		57 ICC	2.3%	1.5%	-	
	適合度	58 逸脱度(-2LL)	947.0813	780.1182	841.4016	
		59 AIC	951.0813	784.1182	845.4016	

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=525、地域=180] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が大卒・大学院卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

参考4 マルチレベル回帰分析結果詳細（説明変数統合版）

○総括表（再掲）

分類	No	説明変数	結束型SC						橋渡・連結型SC									
			全	1	2	3	4	5	6	全	1	2	3	4	5	6		
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	【小中】学校施設の活用経験															
	②各種学習活動の経験、 学校教育課程の修了	2	最終学歴(専門学校・短大卒ダミー)															
		2	最終学歴(大卒・大学院卒ダミー)								○							
		3	出身小学校(公立ダミー)															
		3	出身中学校(公立ダミー)															
		4-8	【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	○			○		○		○							
		9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○
	③部活動・クラブ活動への参加	10	【小中】部活動・クラブ活動の参加経験						●									
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11	【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験															
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度	○		○					○	○	○				○	○
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13-16	【小中】学校外での各種学習活動の経験	○		○					○	○			○			
		17	【小中】読書習慣(平均読書冊数)				○		○		○		○	○	○	○	○	○
		18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度									○	○	○				○
⑥対人関係	19-20	【小】対人関係の円滑性	○	○	○					○	○							
	19-20	【中】対人関係の円滑性	○		○	○	○				○				○			
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢	○							○	○		○			○	
		22	性別(女子ダミー)									●						●
		23	所得	○			○					○	○					○
		24	職業(無職ダミー)															
		25	居住年数	○	○	○	○	○										
		27	子ども有無(子ども有ダミー)	○		○	○					○						
		28	仕事以外での海外在住経験年数									○						
		29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数									○			○			○
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・ 生涯学習施設の整備・開放	30	人口千人当たり公立小学校数															
		31	人口千人当たり公立中学校数												○			
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数															
	⑧教育内容・方法の精査、 個別事業の実施、関連組織の支援	37	公立小学校への通学率															
		37	公立中学校への通学率				○											
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合															
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合															
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数																	
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)															
		43	生産年齢人口割合	●												●		
		44-45	人口流動性指数															
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)															

- 全ての説明変数を投入したモデルにおいて、結束型 SC 指数、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がある有意な影響を与えているか/与えていないかを整理した。説明変数を段階的に投入したモデルについては、「参考4 マルチレベル回帰分析結果詳細（説明変数統合版）」参照。
- 表頭「結束型 SC 指数」「橋渡型・連結型 SC 指数」の列は、それぞれ結束型 SC 指数、橋渡型・連結型 SC 指数への影響を検証した結果。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「全」「1」「2」…「6」は、それぞれ以下の回答者を対象として分析した結果であることを意味する。  
全：全回答者 1：公立中学出身×中卒・高校中退・高卒 2：公立中学出身×専門学校卒・短大卒 3：公立中学出身×大卒・大学院卒  
4：私立・国立中学出身×中卒・高校中退・高卒 5：私立・国立中学出身×専門学校卒・短大卒 6：私立・国立中学出身×大卒・大学院卒
- ○●：5%水準で有意な変数（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が5%未満） [○はポジティブな影響、●はネガティブな影響]



○全回答者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-		切片	0.004	-1.073 ***	-0.547	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	【小中】学校施設の活用経験		-0.001	
		2	最終学歴(専門学校・短大卒ダミー)	0.036	0.037	
	②各種学習活動の経験、 学校教育課程の修了	2	最終学歴(大卒・大学院卒ダミー)	-0.022	-0.020	
		3	出身小学校(公立ダミー)	0.036	0.041	
		3	出身中学校(公立ダミー)	0.034	0.030	
		4-8	【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了	0.112 ***	0.109 ***	
		9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度	0.162 ***	0.163 ***	
	③部活動・クラブ活動への参加	10	【小中】部活動・クラブ活動の参加経験	-0.004	-0.005	
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11	【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験	-0.002	-0.001	
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度	0.076 ***	0.075 ***	
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13-16	【小中】学校外での各種学習活動の経験	0.123 ***	0.125 ***	
		17	【小中】読書習慣(平均読書冊数)	0.025	0.026	
		18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度	0.009	0.008	
⑥対人関係	19-20	【小】対人関係の円滑性	0.092 ***	0.093 ***		
	19-20	【中】対人関係の円滑性	0.109 ***	0.108 ***		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢	0.005 *	0.005 *	
		22	性別(女子ダミー)	-0.029	-0.025	
		23	所得	0.015 *	0.015 *	
		24	職業(無職ダミー)	-0.195	-0.196	
		25	居住年数	0.049 ***	0.048 ***	
		27	子ども有無(子ども有ダミー)	0.162 ***	0.158 ***	
		28	仕事以外での海外在住経験年数	0.011	0.011	
		29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数	0.013	0.015	
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・ 生涯学習施設の整備・開放	30	人口千人当たり公立小学校数		-0.216	
		31	人口千人当たり公立中学校数		-0.133	
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数		-0.004	
	⑧教育内容・方法の精査、 個別事業の実施、関連組織の支援	37	公立小学校への通学率		0.001	
		37	公立中学校への通学率		0.003	
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合		0.000	
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合		0.000	
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数		0.000			
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)		0.003	
		43	生産年齢人口割合		-1.529 *	
		44-45	人口流動性指数		0.014	
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)		0.050	
分散・適合度	分散		地域内分散	0.4111	0.2647	0.2658
			地域間分散	0.0086	0.0050	0.0039
			ICC	2.0%	1.9%	1.4%
	適合度		逸脱度(-2LL)	3918.6762	3164.4676	3240.4371
			AIC	3922.6762	3168.4676	3244.4371

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=2060、地域=517] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 全回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型SC指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型SC指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○全回答者対象：橋渡・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	橋渡・連結型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-		切片	-0.004	-1.064 ***	-0.509	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	【小中】学校施設の活用経験		-0.012	-0.013
		2	最終学歴(専門学校・短大卒ダミー)		0.030	0.034
	②各種学習活動の経験、 学校教育課程の修了	2	最終学歴(大卒・大学院卒ダミー)		0.080 ***	0.087 ***
		3	出身小学校(公立ダミー)		0.017	0.021
		3	出身中学校(公立ダミー)		0.001	-0.002
		4-8	【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.056 **	0.053 **
		9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.122 ***	0.122 ***
	③部活動・クラブ活動への参加	10	【小中】部活動・クラブ活動の参加経験		0.011	0.010
	④社会教育施設を活用した学習活動経験	11	【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		0.002	0.002
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.073 ***	0.073 ***
	⑤学校外での各種学習活動の経験	13-16	【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.045 *	0.048 *
		17	【小中】読書習慣(平均読書冊数)		0.078 ***	0.077 ***
18		【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.037 ***	0.037 ***	
⑥対人関係	19-20	【小】対人関係の円滑性		0.031 **	0.032 **	
	19-20	【中】対人関係の円滑性		0.033 **	0.033 **	
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢		0.008 ***	0.008 ***
		22	性別(女子ダミー)		-0.063 **	-0.059 **
		23	所得		0.041 ***	0.042 ***
		24	職業(無職ダミー)		-0.086	-0.088
		25	居住年数		0.006	0.005
		27	子ども有無(子ども有ダミー)		0.001	-0.004
		28	仕事以外での海外在住経験年数		0.019 *	0.021 **
		29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.036 ***	0.036 ***
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・ 生涯学習施設の整備・開放	30	人口千人当たり公立小学校数			-0.056
		31	人口千人当たり公立中学校数			0.372
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数			0.004
	⑧教育内容・方法の精査、 個別事業の実施、関連組織の支援	37	公立小学校への通学率			-0.005
		37	公立中学校への通学率			0.002
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合			0.000
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合			0.000
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)			0.006
		43	生産年齢人口割合			-0.505
		44-45	人口流動性指数			0.014
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.003
分散・適合度	分散		地域内分散	0.2199	0.1313	0.1314
			地域間分散	0.0016	0.0000	0.0000
			ICC	0.7%	-	-
	適合度		逸脱度(-2LL)	2653.4387	1756.3240	1841.7530
			AIC	2657.4387	1760.3240	1845.7530

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=2060、地域=517] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 全回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×中卒・高校中退・高卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC		
			モデル0	モデル1	モデル2
-		切片	-0.030	-0.487	0.484
個人レベル (教育)	①	1 【小中】学校施設の活用経験		0.003	0.005
	②	3 出身小学校(公立ダミー)		0.154	0.201
		4-8 【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.101	0.095
		9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.118 *	0.121 **
	③	10 【小中】部活動・クラブ活動への参加		0.001	0.002
	④	11 【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		0.059	0.059
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.045	0.043
	⑤	13-16 【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.091	0.108
		17 【小中】読書習慣(平均読書冊数)		0.024	0.017
		18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.051	0.050
⑥	19-20 【小】対人関係の円滑性		0.149 ***	0.144 ***	
	19-20 【中】対人関係の円滑性		0.078	0.082	
個人レベル (外部要因)	⑩	21 年齢		-0.009	-0.009
		22 性別(女子ダミー)		-0.129 *	-0.122
		23 所得		0.010	0.008
		24 職業(無職ダミー)		-0.279	-0.328
		25 居住年数		0.074 **	0.077 **
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.101	0.107
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.038	0.036
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		-0.015	-0.015
地域レベル (教育)	⑦	30 人口千人当たり公立小学校数			-0.063
		31 人口千人当たり公立中学校数			0.359
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			-0.064
	⑧	37 公立小学校への通学率			-0.009
		37 公立中学校への通学率			0.006
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合			0.000
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合			0.001
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000		
地域レベル (外部要因)	⑪	42 人口規模(対数)			0.019
		43 生産年齢人口割合			-1.806
		44-45 人口流動性指数			0.029
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.085
分散・適合度	分散	地域内分散	0.3569	0.2381	0.2371
		地域間分散	0.0130	0.0146	0.0191
		ICC	3.5%	5.8%	7.5%
	適合度	逸脱度(-2LL)	620.8163	563.2672	622.7969
		AIC	624.8163	567.2672	626.7969

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=352、地域=207] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が中卒・高校中退・高卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加／減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が 0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×中卒・高校中退・高卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	橋渡・連結型SC		
			モデル0	モデル1	モデル2
-		切片	-0.118 ***	-0.805 ***	0.012
個人レベル (教育)	①	1 【小中】学校施設の活用経験		-0.003	0.002
	②	3 出身小学校(公立ダミー)		0.030	0.054
		4-8 【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.017	0.009
		9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.101 ***	0.101 ***
	③	10 【小中】部活動・クラブ活動への参加		-0.024	-0.025
	④	11 【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		0.044	0.040
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.090 ***	0.089 ***
	⑤	13-16 【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.016	0.032
		17 【小中】読書習慣(平均読書冊数)		-0.006	-0.011
		18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.044 *	0.043 *
⑥	19-20 【小】対人関係の円滑性		0.048	0.045	
	19-20 【中】対人関係の円滑性		0.025	0.024	
個人レベル (外部要因)	⑩	21 年齢		0.004	0.005
		22 性別(女子ダミー)		-0.031	-0.020
		23 所得		0.042 **	0.046 **
		24 職業(無職ダミー)		-0.117	-0.100
		25 居住年数		0.004	0.002
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.037	0.038
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.034	0.043
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.004	0.007
地域レベル (教育)	⑦	30 人口千人当たり公立小学校数			-0.130
		31 人口千人当たり公立中学校数			0.135
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			-0.021
	⑧	37 公立小学校への通学率			-0.007
		37 公立中学校への通学率			0.001
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合			-0.001
⑨	39 放課後子ども教室実施小学校区割合			0.000	
	40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000	
地域レベル (外部要因)	⑪	42 人口規模(対数)			-0.011
		43 生産年齢人口割合			0.218
		44-45 人口流動性指数			0.037
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			-0.055
分散・適合度	分散	地域内分散	0.1252	0.0909	0.0920
		地域間分散	0.0000	0.0000	0.0000
		ICC	-	-	-
	適合度	逸脱度(-2LL)	259.5754	243.5097	316.6671
		AIC	263.5754	247.5097	320.6671

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=352、地域=207] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が中卒・高校中退・高卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×専門学校卒・短大卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC		
			モデル0	モデル1	モデル2
-		切片	0.088 *	-1.146 ***	1.086
個人レベル (教育)	①	1 【小中】学校施設の活用経験		0.017	0.016
	②	3 出身小学校(公立ダミー)		0.000	0.000
		4-8 【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.116	0.118
		9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.092 *	0.079 *
	③	10 【小中】部活動・クラブ活動への参加		0.016	0.016
	④	11 【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		-0.013	-0.013
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.128 **	0.119 **
	⑤	13-16 【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.188 **	0.176 **
		17 【小中】読書習慣(平均読書冊数)		-0.015	-0.022
		18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.018	0.016
⑥	19-20 【小】対人関係の円滑性		0.110 **	0.116 **	
	19-20 【中】対人関係の円滑性		0.169 ***	0.164 ***	
個人レベル (外部要因)	⑩	21 年齢		0.008	0.008
		22 性別(女子ダミー)		0.066	0.081
		23 所得		-0.004	-0.004
		24 職業(無職ダミー)		0.234	0.202
		25 居住年数		0.079 **	0.072 *
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.287 ***	0.290 ***
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.014	0.017
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		-0.022	-0.020
地域レベル (教育)	⑦	30 人口千人当たり公立小学校数			0.466
		31 人口千人当たり公立中学校数			-1.170
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			0.106
	⑧	37 公立小学校への通学率			-0.028
		37 公立中学校への通学率			0.014 *
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合			0.000
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合			0.001
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000		
地域レベル (外部要因)	⑪	42 人口規模(対数)			0.030
		43 生産年齢人口割合			-2.611
		44-45 人口流動性指数			-0.010
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.153
分散・適合度	分散	地域内分散	0.4106	0.2291	0.2329
		地域間分散	0.0041	0.0159	0.0099
		ICC	1.0%	6.5%	4.1%
	適合度	逸脱度(-2LL)	628.1959	530.9144	583.2743
		AIC	632.1959	534.9144	587.2743

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=329、地域=189] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が専門学校卒・短大卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加／減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が 0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×専門学校卒・短大卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	橋渡・連結型SC		
			モデル0	モデル1	モデル2
-		切片	-0.011	-1.021 ***	-0.921
個人レベル (教育)	①	1 【小中】学校施設の活用経験		0.053	0.049
	②	3 出身小学校(公立ダミー)		0.000	0.000
		4-8 【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.042	0.040
		9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.116 ***	0.112 ***
	③	10 【小中】部活動・クラブ活動への参加経験		0.020	0.025
	④	11 【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		0.009	-0.002
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.026	0.011
	⑤	13-16 【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.058	0.073
		17 【小中】読書習慣(平均読書冊数)		0.079 ***	0.081 ***
		18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.033 *	0.029 *
⑥	19-20 【小】対人関係の円滑性		0.031	0.034	
	19-20 【中】対人関係の円滑性		0.045	0.046	
個人レベル (外部要因)	⑩	21 年齢		0.013 ***	0.013 **
		22 性別(女子ダミー)		0.024	0.035
		23 所得		0.002	0.003
		24 職業(無職ダミー)		0.117	0.061
		25 居住年数		0.018	0.022
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.041	0.031
		28 仕事以外での海外在住経験年数		-0.010	0.000
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.013	0.028
地域レベル (教育)	⑦	30 人口千人当たり公立小学校数			0.876
		31 人口千人当たり公立中学校数			-0.099
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			0.115
	⑧	37 公立小学校への通学率			0.001
		37 公立中学校への通学率			-0.006
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合			0.001
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合			0.001
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000		
地域レベル (外部要因)	⑪	42 人口規模(対数)			-0.003
		43 生産年齢人口割合			0.285
		44-45 人口流動性指数			-0.011
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			-0.030
分散・適合度	分散	地域内分散	0.1493	0.0991	0.0953
		地域間分散	0.0024	0.0000	0.0000
		ICC	1.6%	-	-
	適合度	逸脱度(-2LL)	308.0893	262.5465	317.0128
		AIC	312.0893	266.5465	321.0128

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=329、地域=189] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が専門学校卒・短大卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×大卒・大学院卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC		
			モデル0	モデル1	モデル2
-		切片	-0.016	-1.584 ***	1.260
個人レベル (教育)	①	1 【小中】学校施設の活用経験		-0.037	-0.047
	②	3 出身小学校(公立ダミー)		0.161	0.225
		4-8 【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.221 ***	0.233 ***
		9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.138 **	0.151 ***
	③	10 【小中】部活動・クラブ活動への参加		0.006	0.002
	④	11 【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		-0.076 *	-0.073
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.053	0.042
	⑤	13-16 【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.103	0.107
		17 【小中】読書習慣(平均読書冊数)		0.065 *	0.076 *
		18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.022	0.021
⑥	19-20 【小】対人関係の円滑性		0.053	0.060	
	19-20 【中】対人関係の円滑性		0.092 *	0.090 *	
個人レベル (外部要因)	⑩	21 年齢		0.005	0.006
		22 性別(女子ダミー)		-0.047	-0.042
		23 所得		0.049 **	0.049 **
		24 職業(無職ダミー)		-0.324	-0.302
		25 居住年数		0.061 **	0.062 **
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.223 **	0.197 **
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.018	0.018
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.009	0.012
地域レベル (教育)	⑦	30 人口千人当たり公立小学校数			-1.453
		31 人口千人当たり公立中学校数			0.845
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			-0.039
	⑧	37 公立小学校への通学率			-0.006
		37 公立中学校への通学率			-0.002
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合			-0.001
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合			0.000
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000		
地域レベル (外部要因)	⑪	42 人口規模(対数)			-0.054
		43 生産年齢人口割合			-1.733
		44-45 人口流動性指数			0.084
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.021
分散・適合度	分散	地域内分散	0.3437	0.2321	0.2308
		地域間分散	0.0194	0.0040	0.0052
		ICC	5.3%	1.7%	2.2%
	適合度	逸脱度(-2LL)	616.7622	549.9536	600.9156
		AIC	620.7622	553.9536	604.9156

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=351、地域=177] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が大卒・大学院卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加／減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が 0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「公立中学校出身×大卒・大学院卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	橋渡・連結型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-		切片	0.027	-0.545 *	0.026	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	【小中】学校施設の活用経験		-0.016	-0.012
	②各種学習活動の経験、 学校教育課程の修了	3	出身小学校(公立ダミー)		-0.076	-0.129
		4-8	【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.023	0.014
		9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.060 *	0.055
	③部活動・クラブ活動への 参加	10	【小中】部活動・クラブ活動の参加経験		0.028	0.020
	④社会教育施設を活用し た学習活動経験	11	【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		-0.014	-0.016
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.024	0.027
	⑤学校外での各種学習活 動の経験	13-16	【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.115 **	0.124 **
		17	【小中】読書習慣(平均読書冊数)		0.108 ***	0.114 ***
		18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.021	0.021
⑥対人関係	19-20	【小】対人関係の円滑性		0.054	0.047	
	19-20	【中】対人関係の円滑性		-0.005	0.003	
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢		0.005	0.005
		22	性別(女子ダミー)		-0.056	-0.046
		23	所得		0.018	0.017
		24	職業(無職ダミー)		-0.043	-0.037
		25	居住年数		0.013	0.013
		27	子ども有無(子ども有ダミー)		0.009	0.014
		28	仕事以外での海外在住経験年数		0.009	0.010
		29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.043 **	0.044 **
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・ 生涯学習施設の整備・開 放	30	人口千人当たり公立小学校数			-1.040
		31	人口千人当たり公立中学校数			3.964 **
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数			-0.008
	⑧教育内容・方法の精 査、個別事業の実施、関 連組織の支援	37	公立小学校への通学率			-0.013
		37	公立中学校への通学率			0.005
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合			0.001
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合			0.000
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)			-0.003
		43	生産年齢人口割合			0.297
		44-45	人口流動性指数			0.024
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.021
分散・適合 度	分散		地域内分散	0.0000	0.1096	0.1094
			地域間分散	0.0000	0.0000	0.0000
			ICC	-	-	-
	適合度		逸脱度(-2LL)	319.2025	307.6624	368.3895
			AIC	319.2385	311.6624	372.3895

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=351、地域=177] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 公立中学校出身で最終学歴が大卒・大学院卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が 0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。



○「国私立中学校出身×中卒・高校中退・高卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-		切片	-0.142 **	-0.911 ***	-2.604	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	【小中】学校施設の活用経験		0.102	
	②各種学習活動の経験、 学校教育課程の修了	3	出身小学校(公立ダミー)		-0.027	
		4-8	【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.108	
		9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.214 ***	
	③部活動・クラブ活動への 参加	10	【小中】部活動・クラブ活動の参加経験		-0.121 *	
	④社会教育施設を活用し た学習活動経験	11	【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		-0.039	
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.052	
	⑤学校外での各種学習活 動の経験	13-16	【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.161	
		17	【小中】読書習慣(平均読書冊数)		-0.007	
		18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		-0.012	
⑥対人関係	19-20	【小】対人関係の円滑性		0.030		
	19-20	【中】対人関係の円滑性		0.229 ***		
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢		0.002	
		22	性別(女子ダミー)		0.121	
		23	所得		0.016	
		24	職業(無職ダミー)		-0.126	
		25	居住年数		0.067 *	
		27	子ども有無(子ども有ダミー)		-0.016	
		28	仕事以外での海外在住経験年数		-0.013	
		29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.058	
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・ 生涯学習施設の整備・開 放	30	人口千人当たり公立小学校数		1.409	
		31	人口千人当たり公立中学校数		-4.075	
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数		0.175	
	⑧教育内容・方法の精 査、個別事業の実施、関 連組織の支援	37	公立小学校への通学率		0.034	
		37	公立中学校への通学率		-0.011	
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合		0.000	
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合		0.000	
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数		0.000			
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)		0.015	
		43	生産年齢人口割合		-1.007	
		44-45	人口流動性指数		-0.091	
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)		-0.037	
分散・適合 度	分散		地域内分散	0.4380	0.2631	0.2593
			地域間分散	0.0000	0.0070	0.0140
			ICC	0.0%	2.6%	5.1%
	適合度		逸脱度(-2LL)	474.3063	429.2829	476.4622
			AIC	478.3063	433.2829	480.4622

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=243、地域=147] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が中卒・高校中退・高卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加／減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が 0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×中卒・高校中退・高卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	橋渡・連結型SC		
			モデル0	モデル1	モデル2
-		切片	-0.171 ***	-1.272 ***	2.472
個人レベル (教育)	①	1 【小中】学校施設の活用経験		-0.049	-0.059
	②	3 出身小学校(公立ダミー)		0.016	0.000
		4-8 【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.102 *	0.082
		9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.103 ***	0.112 ***
	③	10 【小中】部活動・クラブ活動への参加		-0.041	-0.031
	④	11 【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		-0.055	-0.043
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.020	0.016
	⑤	13-16 【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.113	0.104
		17 【小中】読書習慣(平均読書冊数)		0.130 ***	0.139 ***
		18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.019	0.018
⑥	19-20 【小】対人関係の円滑性		-0.001	0.001	
	19-20 【中】対人関係の円滑性		0.103 **	0.104 **	
個人レベル (外部要因)	⑩	21 年齢		0.015 **	0.015 **
		22 性別(女子ダミー)		-0.078	-0.084
		23 所得		0.026	0.032
		24 職業(無職ダミー)		-0.130	-0.030
		25 居住年数		0.006	0.001
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.046	0.047
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.013	0.034
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		-0.013	-0.010
地域レベル (教育)	⑦	30 人口千人当たり公立小学校数			-0.094
		31 人口千人当たり公立中学校数			-0.164
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			0.009
	⑧	37 公立小学校への通学率			-0.030
		37 公立中学校への通学率			0.008
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合			0.001
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合			0.000
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000		
地域レベル (外部要因)	⑪	42 人口規模(対数)			-0.007
		43 生産年齢人口割合			-3.144 *
		44-45 人口流動性指数			0.022
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.154
分散・適合度	分散	地域内分散	0.1634	0.1074	0.1070
		地域間分散	0.0267	0.0061	0.0048
		ICC	14.1%	5.4%	4.3%
	適合度	逸脱度(-2LL)	275.0882	243.9912	297.2418
		AIC	279.0882	247.9912	301.2418

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=243、地域=147] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が中卒・高校中退・高卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×専門学校卒・短大卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC		
			モデル0	モデル1	モデル2
-		切片	0.037	-1.486 ***	-0.906
個人レベル (教育)	①	1 【小中】学校施設の活用経験		0.024	0.033
	②	3 出身小学校(公立ダミー)		0.134	0.146
		4-8 【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.187 *	0.177 *
		9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.205 ***	0.195 ***
	③	10 【小中】部活動・クラブ活動への参加		0.016	0.012
	④	11 【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		0.009	0.015
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.061	0.051
	⑤	13-16 【小中】学校外での各種学習活動の経験		-0.024	-0.020
		17 【小中】読書習慣(平均読書冊数)		0.084 *	0.104 *
		18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.003	0.004
⑥	19-20 【小】対人関係の円滑性		0.032	0.024	
	19-20 【中】対人関係の円滑性		0.038	0.043	
個人レベル (外部要因)	⑩	21 年齢		0.014	0.011
		22 性別(女子ダミー)		-0.158	-0.162
		23 所得		0.028	0.019
		24 職業(無職ダミー)		-0.294	-0.381
		25 居住年数		0.043	0.057
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.116	0.112
		28 仕事以外での海外在住経験年数		-0.017	-0.015
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.003	-0.001
地域レベル (教育)	⑦	30 人口千人当たり公立小学校数			-2.415
		31 人口千人当たり公立中学校数			1.011
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			0.492
	⑧	37 公立小学校への通学率			-0.002
		37 公立中学校への通学率			0.000
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合			0.001
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合			0.000
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000		
地域レベル (外部要因)	⑪	42 人口規模(対数)			0.036
		43 生産年齢人口割合			-1.746
		44-45 人口流動性指数			-0.143
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.123
分散・適合度	分散	地域内分散	0.4597	0.3332	0.3371
		地域間分散	0.0105	0.0007	0.0044
		ICC	2.2%	0.2%	1.3%
	適合度	逸脱度(-2LL)	534.0911	514.2211	562.1176
		AIC	538.0911	518.2211	566.1176

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=265、地域=124] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が専門学校卒・短大卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加／減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×専門学校卒・短大卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	橋渡・連結型SC		
			モデル0	モデル1	モデル2
-		切片	0.000 ***	-0.935 ***	-0.349
個人レベル (教育)	①	1 【小中】学校施設の活用経験		-0.008	0.000
	②	3 出身小学校(公立ダミー)		0.063	0.064
		4-8 【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.085 *	0.092 *
		9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.094 ***	0.091 ***
	③	10 【小中】部活動・クラブ活動への参加経験		0.004	-0.003
	④	11 【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		0.013	0.012
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.079 ***	0.081 ***
	⑤	13-16 【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.021	0.011
		17 【小中】読書習慣(平均読書冊数)		0.071 **	0.075 **
		18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.018	0.018
⑥	19-20 【小】対人関係の円滑性		-0.029	-0.031	
	19-20 【中】対人関係の円滑性		0.052	0.048	
個人レベル (外部要因)	⑩	21 年齢		0.006	0.005
		22 性別(女子ダミー)		-0.051	-0.055
		23 所得		0.028 *	0.028
		24 職業(無職ダミー)		-0.034	-0.037
		25 居住年数		0.016	0.013
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		-0.004	0.012
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.024	0.023
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.020	0.021
地域レベル (教育)	⑦	30 人口千人当たり公立小学校数			0.509
		31 人口千人当たり公立中学校数			0.328
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			-0.042
	⑧	37 公立小学校への通学率			-0.013
		37 公立中学校への通学率			0.002
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合			0.001
		39 放課後子ども教室実施小学校区割合			0.000
40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000		
地域レベル (外部要因)	⑪	42 人口規模(対数)			0.045
		43 生産年齢人口割合			-0.223
		44-45 人口流動性指数			-0.058
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			-0.012
分散・適合度	分散	地域内分散	0.0000	0.1038	0.1025
		地域間分散	0.0000	0.0000	0.0046
		ICC	-	-	4.3%
	適合度	逸脱度(-2LL)	275.2862	240.9028	302.6470
		AIC	275.3340	244.9028	306.6470

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=265、地域=124] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が専門学校卒・短大卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×大卒・大学院卒」者対象：結束型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	結束型SC		
			モデル0	モデル1	モデル2
-		切片	0.045	-1.160 ***	-0.185
個人レベル (教育)	①	1 【小中】学校施設の活用経験		-0.046	-0.041
	②	3 出身小学校(公立ダミー)		0.022	0.019
		4-8 【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.055	0.044
		9 【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.186 ***	0.178 ***
	③	10 【小中】部活動・クラブ活動への参加		0.022	0.017
	④	11 【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		0.026	0.029
		12 【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.109 ***	0.109 ***
	⑤	13-16 【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.179 **	0.181 **
		17 【小中】読書習慣(平均読書冊数)		0.012	0.012
		18 【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.000	0.003
⑥	19-20 【小】対人関係の円滑性		0.125 ***	0.127 ***	
	19-20 【中】対人関係の円滑性		0.056	0.060	
個人レベル (外部要因)	⑩	21 年齢		0.012 *	0.012 *
		22 性別(女子ダミー)		-0.018	-0.006
		23 所得		-0.005	-0.004
		24 職業(無職ダミー)		-0.161	-0.131
		25 居住年数		0.027	0.024
		27 子ども有無(子ども有ダミー)		0.164 **	0.136 *
		28 仕事以外での海外在住経験年数		0.013	0.011
		29 学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.026	0.025
地域レベル (教育)	⑦	30 人口千人当たり公立小学校数			-0.899
		31 人口千人当たり公立中学校数			-1.772
		32-36 人口千人当たり社会教育施設数			-0.123
	⑧	37 公立小学校への通学率			0.012
		37 公立中学校への通学率			0.007
		38 学校支援地域本部事業実施学校割合			-0.003
⑨	39 放課後子ども教室実施小学校区割合			0.000	
	40-41 社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000	
地域レベル (外部要因)	⑪	42 人口規模(対数)			-0.017
		43 生産年齢人口割合			-3.017
		44-45 人口流動性指数			0.093
		46 納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.041
分散・適合度	分散	地域内分散	0.4319	0.2626	0.2564
		地域間分散	0.0209	0.0138	0.0198
		ICC	4.6%	5.0%	7.2%
	適合度	逸脱度(-2LL)	1042.8120	874.1320	921.5240
		AIC	1046.8120	878.1320	925.5240

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=525、地域=180] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が大卒・大学院卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、結束型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ（個人・地域レベルの説明変数は投入せず） モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、結束型 SC 指数がどの程度増加／減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意（当該変数が SC 指数に影響を与えていない可能性が 0.1%未満。以下、同様） \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる（大きいほど影響力が強い）。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。

○「国私立中学校出身×大卒・大学院卒」者対象：橋渡型・連結型ソーシャル・キャピタル指数

分類	No	説明変数	橋渡・連結型SC			
			モデル0	モデル1	モデル2	
-		切片	0.168 ***	-1.091 ***	-0.326	
個人レベル (教育)	①学校施設の活用	1	【小中】学校施設の活用経験		-0.016	-0.012
	②各種学習活動の経験、 学校教育課程の修了	3	出身小学校(公立ダミー)		-0.047	-0.047
		4-8	【小中】各種学習活動の経験、学校教育課程の修了		0.025	0.019
		9	【現在】地域内における学校支援活動実施程度		0.166 ***	0.160 ***
	③部活動・クラブ活動への 参加	10	【小中】部活動・クラブ活動の参加経験		0.022	0.018
	④社会教育施設を活用し た学習活動経験	11	【小中】社会教育施設を活用した学習活動経験		0.017	0.016
		12	【現在】近隣の社会教育施設を活用した学習活動程度		0.117 ***	0.121 ***
	⑤学校外での各種学習活 動の経験	13-16	【小中】学校外での各種学習活動の経験		0.046	0.050
		17	【小中】読書習慣(平均読書冊数)		0.061 **	0.062 **
		18	【現在】自身のスキルアップに役立つ学習の実施程度		0.061 ***	0.061 ***
⑥対人関係	19-20	【小】対人関係の円滑性		0.056 *	0.060	
	19-20	【中】対人関係の円滑性		0.009	0.009	
個人レベル (外部要因)	⑩外部要因(個人レベル)	21	年齢		0.008 *	0.008 *
		22	性別(女子ダミー)		-0.116 **	-0.111 *
		23	所得		0.064 ***	0.065 ***
		24	職業(無職ダミー)		-0.310	-0.316
		25	居住年数		-0.006	-0.009
		27	子ども有無(子ども有ダミー)		-0.020	-0.031
		28	仕事以外での海外在住経験年数		0.015	0.017
		29	学生時代のアルバイト・インターンシップ経験度数		0.067 ***	0.069 ***
地域レベル (教育)	⑦学校施設、社会教育・ 生涯学習施設の整備・開 放	30	人口千人当たり公立小学校数			0.162
		31	人口千人当たり公立中学校数			-0.411
		32-36	人口千人当たり社会教育施設数			-0.253
	⑧教育内容・方法の精 査、個別事業の実施、関 連組織の支援	37	公立小学校への通学率			0.001
		37	公立中学校への通学率			0.004
		38	学校支援地域本部事業実施学校割合			0.000
		39	放課後子ども教室実施小学校区割合			0.001
40-41	社会教育施設当たり社会教育関連学級講座数			0.000		
地域レベル (外部要因)	⑪外部要因(地域レベル)	42	人口規模(対数)			0.009
		43	生産年齢人口割合			-2.210
		44-45	人口流動性指数			-0.002
		46	納税者一人当たり課税対象所得(千円)			0.045
分散・適合 度	分散		地域内分散	0.3638	0.1839	0.1865
			地域間分散	0.0085	0.0028	0.0000
			ICC	2.3%	1.5%	-
	適合度		逸脱度(-2LL)	947.0810	687.6360	748.0820
			AIC	951.0810	691.6360	752.0820

(\*\*\* 0.1%水準で有意、\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意) [N:個人=525、地域=180] ※一地域内のサンプルが5に満たないケースも存在する

- 国私立中学校出身で最終学歴が大卒・大学院卒の回答者を対象とし、説明変数を段階的に投入した各分析モデルにおいて、橋渡型・連結型 SC 指数にどの変数がどの程度の影響を与えているか整理した。
- 「説明変数」列の「小」「中」「小中」は、それぞれ以下を意味する。 小：小学生時代 中：中学生時代 小中：小中学生時代
- 2行目の「モデル0」「モデル1」「モデル2」は、それぞれ以下の説明変数を投入した分析モデルであることを意味する。  
モデル0：切片のみ(個人・地域レベルの説明変数は投入せず) モデル1：個人レベルの説明変数 モデル2：個人レベルと地域レベルの説明変数
- 各モデル列の数値は、説明変数を一単位増加させた際、橋渡型・連結型 SC 指数がどの程度増加/減少するかを示している。
- 数値の横に付してある「\*」は、それぞれ以下を意味する。  
\*\*\*：0.1%水準で有意(当該変数がSC指数に影響を与えていない可能性が0.1%未満。以下、同様) \*\*：1%水準で有意 \*：5%水準で有意
- 「分散」行の「ICC」は、地域間分散を全体の分散で除した値であり、地域レベル要因の影響力の強さを示す指標となる(大きいほど影響力が強い)。
- 「適合度」行の「逸脱度」及び「AIC」は、各分析モデルの妥当性等を示しており、一般的には値が小さいほど妥当なモデルと考えられる。